

テキスト：今泉他著『ミクロ経済学 基礎と演習』

第1章の補足事項

1. 消費者余剰と生産者余剰

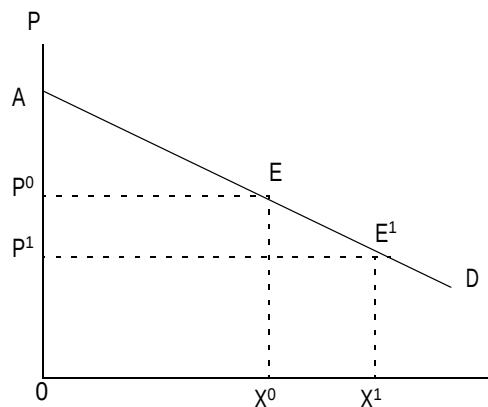
消費者余剰 (consumer surplus, consumer's surplus)

生産者余剰 (producer surplus, producer's surplus)

定義

A) 消費者余剰

「ある消費量に対して支払う用意がある最大の額と、実際の支払額との差額」



D: 需要曲線は、各消費単位に対する最大の限界評価を表わしている。

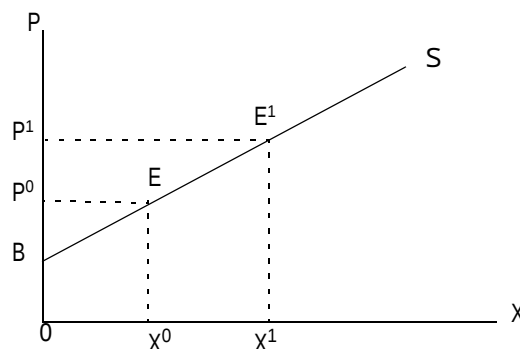
価格 P^0 で数量 X^0 を購入するとき、支払う用意がある最大額 = 領域 $OAEX^0$ の額実際に支払う額 = 領域 OP^0EX^0 の額

したがって、

消費者余剰 = - = 領域 P^0AE の額

B) 生産者余剰

「ある生産量の実際の販売額と、最小必要額との差額」



S: 供給曲線 供給曲線は、限界費用曲線でもあるから、生産者にとっての最低限必要な価格を表わしている

価格 P^0 で数量 X^0 を販売するとき、実際の販売額 = 領域 OP^0EX^0 の額最小必要額 = 領域 $OBEX^0$ の額生産者余剰 = - = 領域 BP^0E の額

厚生変化の尺度

厚生変化は、消費者余剰と生産者余剰の変化で計測される。

A) 消費者余剰の変化

価格が P^0 から P^1 に下落した場合、消費者余剰は CS だけ増加する。

CS = 領域 $P^1P^0EE^1$ の額

B) 生産者余剰の変化

価格が P^0 から P^1 に上昇した場合、生産者余剰は PS だけ増加する。

PS = 領域 $P^0P^1E^1E$ の額

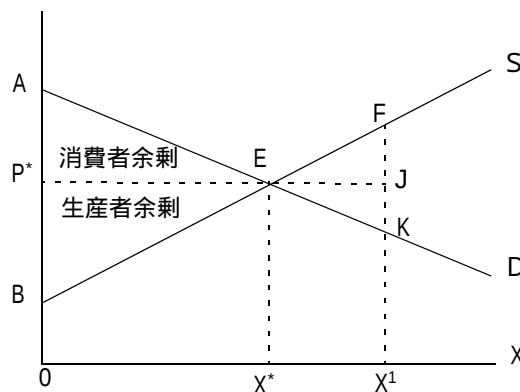
2. 市場均衡と社会的余剰

社会的余剰 = 消費者余剰 + 生産者余剰
(総余剰)

市場均衡 (E 点) で、社会的余剰が最大になっている。

例えば、 X^* を超えて生産量が X^1 になると、EFJ 分の負の生産者余剰と EKJ 分の負の消費者余剰が発生する。

市場均衡 (競争均衡) においては、社会的余剰が最大になることから、効率的資源配分が達成されるといえる。



3. 政策の厚生効果

(1) 租税と経済厚生 (テキスト 30-31 頁)

課税前均衡 (E 点)

$$\begin{aligned}\text{社会的余剰} &= \text{消費者余剰} + \text{生産者余剰} \\ &= EAB \\ &= P^0AE + P^0BE\end{aligned}$$

課税

従量税 t が課税され、供給曲線が S' に上方シフトしたとする。

課税後均衡 (E' 点)

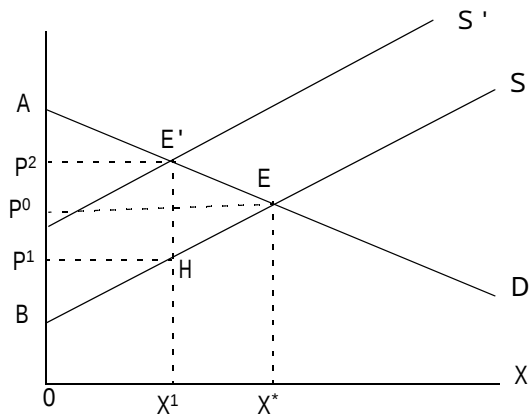
$$\begin{aligned}\text{社会的余剰} &= \text{消費者余剰} + \text{生産者余剰} \\ &= P^2AE' + P^1BH\end{aligned}$$

$$\text{政府税収} = P^1P^2E'H$$

税収は、公共支出か国庫にまわるから、社会全体では余剰の損失にならない。

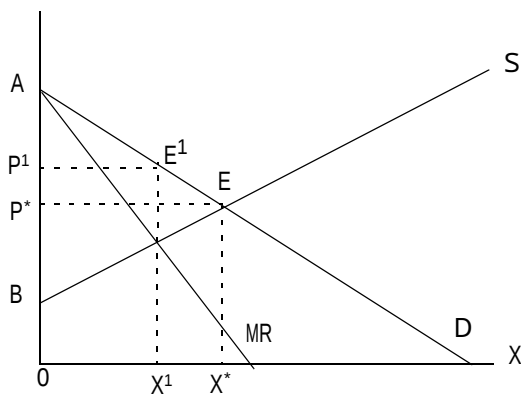
以上から、課税による社会的余剰の損失は $EE'H$ となる。

$EE'H$ を課税による超過負担 (あるいは死荷重損失) という。



(2) 独占と経済厚生 (テキスト 250-253 頁)

下の図は供給独占市場のケースである。、D は需要曲線、S は供給曲線、MR は限界収入曲線を表す。



問題

独占企業の均衡はどこか。そこでは独占企業にとっていかなる条件が満たされているか。
 独占市場における消費者余剰と生産者余剰を求めなさい。
 完全競争市場における均衡はどこか。そこではどのような条件が満たされているか。
 完全競争市場における消費者余剰と生産者余剰を求めなさい。
 独占の場合と完全競争の場合で総余剰の大きさを比較し、完全競争の場合の方が総余剰が大きいことを確認しなさい。
 このことが、独占禁止や競争促進のための規制緩和の理論的根拠になっている。

キーワード

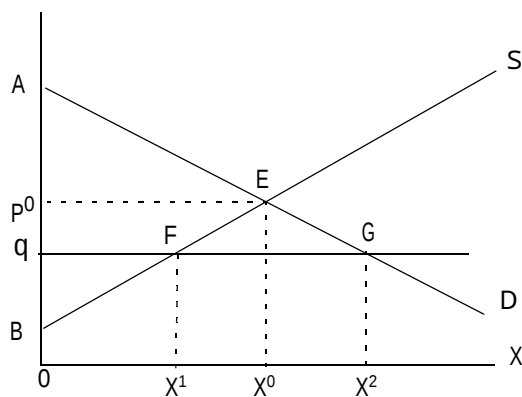
企業の利潤最大化行動、利潤、限界収入、限界費用、価格、独占、完全競争

(3) 自由貿易と経済厚生

ある財 X に対する国内消費者の需要曲線を D 、国内生産者の供給曲線を S とする。また、世界価格は q で一定とする。

貿易前の国内均衡は E 点で、この財の需給は X^0 、価格は P^0 である。

ここで自由貿易が行われ、財 X が世界価格 q で自由に輸入されることになったとしよう。



問題

自由貿易前における、消費者余剰、生産者余剰、総余剰を求めなさい。

自由貿易後の、財 X の需要はいくらか。

国内生産者の生産量、および輸入量はいくらか。

自由貿易後における、消費者余剰、生産者余剰、総余剰を求めなさい。

自由貿易によって、消費者余剰、生産者余剰、総余剰はどれだけ変化することになるか。